

6 植え付け

(1) 植え付けの時期

ア 春 植 え

一般的には春植えが安全である。

適期は、暖地では2～3月、寒冷地では3～4月であるが、おそくなると気温が上昇したり乾燥するので、できるだけ早く植えるようにする。

イ 秋 植 え

秋植えをするときは、生長が止るまでに発根し活着している必要があるので、10月末までには植え付けを終わっておかねばならないが、寒冷地ではこれよりも早めに植え付けるようにする。

(2) 苗木の運搬

ア 造林地までの取り扱い

(ア) 苗畑や仮植畑から植え付けまでは、時間的には短いが苗木の取扱いが粗雑になりやすいので、苗木をいためたり乾燥させないように注意する。

(イ) 仮植苗は、20～30本の小束にして1日に植え付ける必要本数だけをビニール袋等に入れて現地に運ぶ。

この際できれば根に泥づけするとよい。

イ 植え付け時の取り扱い

(ア) 現地に運んだ苗木は、直射日光にあてないよう木陰に置くなどするか、または簡単な仮植をする。

(イ) (ビニール袋に入れたものを直射日光にあてると、袋の中の温度が急激に高まり、中の苗木が熱死することがある。)

(イ) 植え付けにあたっては必要な本数をビニール袋に入れるか、さらにこれを苗木袋に入れて持ち運ぶ。

(3) 植 え 方

ア 次のように植えるとその年から良く生長する。

(ア) 植え付け地点を中心に60～70cm四方の落葉を取り除く。

(イ) 植穴の大きさは、少くとも直径30cm、深さ30cmは必要である。

- (ウ) 苗木の根は十分に広げて植える。
 - (エ) 植穴には腐葉土や石などを入れないようにし，山側の下層の土をくずしかけ，よく踏つけてその上を落葉等でおおう。
 - (オ) スギは，風による動揺を防ぐ効果もあるのでいくぶん深植えする方がよい。
 - (カ) ヒノキは，深植えにすると新しい根が発生しにくいので，スギに比べていくぶん浅く植える方がよい。
- イ ヒノキは，降雨時に植えると枯損が多いので注意する。

孫子の代に贈る山

